



## 【特集 国際交流】

平素は日本ボーイスカウト川崎地区賛助会にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。お蔭様で賛助会への入会者も徐々に増えて参りました。多くの方々に賛助会の存在とその役割をご理解いただいているものと厚く御礼申し上げます。

本年度は「第24回世界スカウトジャンボリー」と「第28回ボルチモア交流派遣」が時を同じくして7月後半から約2週間に渡りアメリカで開催されました。

世界スカウトジャンボリーは、ベーデンパウエル卿がボーイスカウト活動が始まって10年後の1917年に開催予定でしたが、世界第1次大戦などが有り、3年遅れの1920年にロンドンで第1回が開催されました。

「ジャンボリー」はB=P卿が命名したもので、「愉快的仲間たち」と解釈されています。

今年はウエストバージニア州で24回目が開催され、川崎地区から2名の指導者と5名のスカウトとが参加しました。

一方ボルチモア派遣は今回初めてガールスカウトから5名の参加があり、合計18名で派遣隊を編成しました。ボルチモア交流は今年で28回目を迎え、川崎地区の重点事業と位置づけされております。ボーイスカウト運動の目的の一つに「国際交流」があります。

今年も多くの子少年少女が国際交流事業に参加して、貴重な経験を積みスカウトとしてばかりでなく人間としても更に成長していく契機になったと確信をしているところでございます。

賛助会会長 木村耕三

## ■第24回世界ジャンボリー

日本連盟派遣隊 第7隊隊長  
境 紳隆

2019年7月21日から8月5日にかけて、第24回世界スカウトジャンボリー（以下「24WSJ」）に参加して参りました。24WSJには川崎地区からスカウト5名、指導者2名が参加しました。

会場は、USAウエストバージニア州の「サミット・ベクテル・ファミリー・リザーブ」というBSアメリカ連盟最新（2011年開場）のキャンプ場（広



さは約60km<sup>2</sup>程あり、山手線内側の面積と粗同じ広さです。）の北西の一角を使用し開催されました。

常設のキャンプ場なので、既設のクライミングウォールや1kmもあるジップライン等大掛かりなプログラムがたくさん体験できる大会でした。その他、電子名刺交換システムともいふべき

「Novus（ノバス）」や電子化

された食料購入システム、キャンプサイトどこでも通じるWI-FI等、最新機器が導入された前衛的な大会でした。

全世界から集う4万人余のスカウトが、共に様々なプログラムを体験し、日々交流を重ねた日々は、スカウトならではのとても貴重で有意義な時間だったと思います。

日本連盟派遣隊 神奈川第8隊  
川崎第46団 BS隊 原田愛莉

今年の夏、一生忘れられない思い出と、一生に一度の経験をアメリカの地でさせていただきました。



私は中学3年生なので高校入試も迫る中、塾の夏季講習ももちろんあったのですが、この機を逃したら人生で経験することは2度とない。そう思い、迷わず参加しました。初めての飛行機、初めての海外、向こうの地で見るもの食べるもの、すべてが特別に感じました。そして、サミットベクテルリザーブでの実際のアクティビティーは、とても日本では経験することのないスケールの大きいものでした。

アクティビティーが全てではなく、隣のサイトの国のスカウトとの交流から始まり、ノーバスを通して世界中のたくさんのスカウトと友達になることができました。世界中から想像も出来ないほどの沢山のスカウトが集まり、住んでいる国や風習、話す言葉が違っても、お互いにそれぞれの文化を尊重し合い、認め合うということ。それがどれほど素晴らしいものなのか、私はそれを身をもって感じる事ができ、この機会を与えてもらえたことに本当に感謝します。これこそが、24WSJに参加したスカウトの誰もが感じる事ができたであろう、世界ジャンボリーというものの素晴らしさだと思いました。

最後に、私はこの24WSJに参加して、ボーイスカウト活動をしていて本当によかったなと改めて感じました。ボーイスカウトとは何か。人それぞれかける思いは違うでしょう。一人一人が、自らが思うボーイスカウトの形を追求する。これこそがスカウト活動の醍醐味なのではないでしょうか。世界中の様々な境遇の中で同じスカウトとして活動している仲間がいる素晴らしさ、24WSJはまさにそれを肌で感じるきっかけになったものでした。

この経験を生かしながらこれからもスカウト活動に励んでいきます。一生に一度の素晴らしい夏を本



当にありがとうございました。

【川崎市・ボルチモア市姉妹都市提携40周年記念】

■第28回ボルチモアー川崎交流派遣

国際委員長 西角 恵輔

本年度のボルチモア派遣は28回目を迎え、7月20日から8月5日まで、初めてボーイスカウトとガールスカウトスカウトの混成隊として、スカウト14名（BS9名、GS5名）と指導者4名（BS3名、GS1名）の総勢18名で行って参りました。

今年は川崎市とボルチモア市が姉妹都市を提携して40年を迎える年にあたり、市から正式な記念行事としての承認を受け、福田市長から交流の命を受けた形で派遣に臨みました。



例年通りブロードクリークにおけるキャンプやニューヨークやワシントン訪問、市長訪問や大リーグ観戦の他、姉妹都市委員会からは、地元ロータリークラブの計らいを受け、大型ヨットのクルージングが実現するなど、いつもより増して充実したプログラムが実現しました。

本隊の他、視察ツアーとしてGS川崎連絡会小川会長に参加いただき、GSにおいても派遣の意義を十分に理解頂けました。



最後の川崎隊主催のサヨナラパーティーは大盛況で、100名近くの参加者がスカウトの作った日本料理とパフォーマンスを堪能しました。

次年度はオリンピックと重なる難しい期間での受け入れとなりますが、その分特別な時間を作れる様、国際委員会にて支えて参る所存であります。賛助会の皆様におかれましては、末長くこの活動を支えていただく様よろしくお願い申し上げます。



【シリーズ】

## ■ 賛助会の歩み (第7回 最終回)

賛助会副会長 近江廣之

賛助会の予算は、会の運営費と川崎地区協議会への2種類です。川崎地区から前年の12月に予算申請をいただき、翌年の1月・3月に検討、理事会にて賛助金を決め、4月の川崎地区協議会の年次総会に目録を贈りますが、賛助会としては6月の総会にて正式に承認され、振込がされます。



白梅隊 1985年頃

よって、賛助金は、用途と明細にて出来ております。地区からの申請時、賛助会からのお願いとしては、金額

は翌年の収入金額以内であること、及び、行事に関する補助であること(地区の運営費ではないこと)を、条件としてお願いしております。

最近、年に50万円強を賛助しております。金額の多いものは、地区ラリー・ボルチモア交流・ビーバーまつり・白梅隊・GATCなどスカウトの行事に関するもの、講習会・フォーラム・プログラムの研究など指導者に対するもの、が主な賛助金です。

なぜこのようになってきているのかというと、中学・高校とスカウトの学年が高くなると、隊の人数も少なくなり、更に少なくなると、高校生は準指導者として奉仕する。指導者も少ない中で、大きなプログラム及び進歩制度を生かせない隊が多くなっている。



GATC 1985年頃

これは、昔から、どこの隊でも悩みとしてありました。そこで、地区内の隊同志の共同プログラム化の発想が出て来ました。その進化したものが、白梅隊・GATCです。

自隊で力になり地区内で活用できるスカウトになること。そして、進歩している指導者が共に楽しいプログラム展開が出来ること、川崎地区協議会が進歩することになると思います。

その為に賛助会が少しでも力になればと会員の方々にも協力いただいています。

この皆様力は川崎のスカウトの継続した力へと変

わっていきます。新しい方に会員になっていただき、本会はこれからも必要な会であり、その会員であることに顔を上げて進みます。

[完]

## 【特別寄稿】

## ■ 初めての日本ジャンボリー

賛助会理事 梅原英毅

私にとって初めてのジャンボリーは第11回の九州久住高原で、8月3日から5日間行われました。(参加者は8月1日から9日間)集まったのは日本及



び世界各国の代表3万余に皇太子殿下(現在の天皇陛下)が出席された盛大なものでした。

ボーイスカウト活動の世界に入っている人であれば、4年に一度しかないこのイベントへの参加を夢見るもので、特に主役として参加するのは一生にただ一度のチャンスなのです。

何と幸せなことに、この九州で行われた夢のジャンボリーに私たちは親子で参加出来ました。私は野営管理班として奉仕し、息子は神奈川3隊のスカウトとして参加しました。

野営管理班の仕事は、都市設計(テント村のスラム化防止)、警察、清掃局を併せ持ったかなりハードなもので、1年前から綿密な計画を進めながら、体力的に不安を覚えるほどのものでした。そして8月1日、ついにジャンボリーが開催されました。連日雲一つない晴天が続き、日中は35度を超え夜は20度以下になる高原特有の気候は救護班に多数のスカウトを送り込むことになりました。

そんな中、我が息子もいつ救護班のお世話になると心配しましたが時々見かける様子ではその必要はなさそうです。しかし野営管理班と言うのはかなりハードで、特に警察の仕事は夜警もあるし、テントサイトに不審な人物が入るのをチェックしたりで大変でした。



しかし本職が警察官の人が野営管理班にいて、笛や警察手帳もどきの小物を持ち込んで班員に配布し、教育をしてくれたのでありがたかったです。

ただ時々「それは本当か」と職業的にギョロッと目をむかれると、やはり警官

は怖いと思いました。  
ジャンボリーが終了に近くなって息子が神妙な顔で「パイオニア賞」のメダルを首にかけてもらっているのを見かけました。その後日焼けした顔をしてメダルを持ち上げ「パイオニア賞をもらったよ」と楽しそうに言ったので「よかったな」と答えました。最後に帰りのバスが集結した「火の国ランド」でも息子を見かけ「ジャンボリーの感想は」と聞くと「素晴らしいかった、ありがとう」なんて言うものだから「胸にジーン」と来ました。

### ■賛助会員の分布（2019年10月末日現在）

- ・準会員：10名
- ・個人会員：79名
- ・団体会員：14団体
- ・法人会員：13社

### ■理事会報告

第193回、2019年9月8日（日）総合自治会館  
 (1) 2019年度の賛助金関連  
 (2) ボーイスカウト川崎地区活動関連  
 (3) プーメラン8号の発刊について  
 (4) 総会報告  
 (5) その他 会員増強  
 (6) 会員募集用パンフレット300部印刷配布開始した

### ■会員の声を募集しています

本誌では会員の皆様からの声を随時募集しています。

テーマは自由、400字程度の原稿と写真を是非お寄せください。送り先は上記賛助会事務局へお願いいたします。

### ■昔の写真を探しています

賛助会草創期の活動に関する写真を探しています。写真をお持ちの方は事務局へ是非ご提供ください。プリントの写真の場合はスキャンした後ご返却いたします。是非皆様のご協力をお願いいたします。

### ■会員募集

賛助会は随時会員を募集しております。青少年育成にご理解とご支援をいただける方の参加を歓迎いたします。

#### ◆賛助会員の種類と会費

- ・準育成会員（年会費） 一口 2,000円
- ・個人会員（年会費） 一口 5,000円
- ・団体会員（年会費） 一口 10,000円

お問い合わせならびにお申込み、ご意見・ご希望は下記へご連絡ください。

### ■お問い合わせ：賛助会事務局：鈴木

- ・E-mail : sanjokai@scout-kawasaki.org
- ・ホームページ :

<http://www.scout-kawasaki.org/sanjokai/index.html>

日本ボーイスカウト川崎地区賛助会

検索

### ●編集後記

年二回発行の本誌は早いもので第8号となった。今回をもって近江副会長による連載「賛助会の歩み」が完了した。この内容が賛助会の歴史として記録されたことは大きな意義がある。多くの方々の支援によって賛助会が成り立ち、その賛助会によって川崎地区のスカウトが支援されていることを指導者の方々に是非ご理解いただき、今後も賛助会へのご支援を賜りたいと思う(H)

### 【法人会員のご紹介】 順不同・敬称略

|                              |   |   |
|------------------------------|---|---|
| 富士高圧ガス工業株式会社<br>代表 谷屋 利隆     | 株式会社 テタケ<br>代表 出竹 惇文  | 株式会社 沼崎商会<br>代表 沼崎 匡一   |
| 日本エード株式会社<br>代表 小清水 克臣       | 株式会社 上作商店<br>代表 手塚 功  | 株式会社 清水製作所<br>代表 清水 鐵朗  |
| 愛和モールド工業株式会社<br>代表 石井 邦和     | 岡田信司税理士事務所<br>代表 岡田 信司  | 株式会社 杉山産業<br>代表 杉山 晴夫   |
| ドリームキッズさぎぬまナーサリー<br>代表 富山 純江 | コパロン株式会社<br>代表 長澤 清   | 呉エンジニアリング<br>代表 野沢 義幸   |
| 株式会社 保育所ひまわり<br>代表 耳田 英恵     |  |  |